

はじめに

市街地での緑の減少は、生活にゆとりと潤いを与える良好な自然環境の喪失をもたらすだけでなく、ヒートアイランド現象^{※1}を発生させる一因ともなっています。

また、ヒートアイランド現象による夏季の気温上昇は、エネルギーの消費量を増大させ、地球温暖化^{※2}を助長する結果を招いています。

一方で、緑は温室効果ガス^{※3}である二酸化炭素を吸収し、私たちの生命に欠くことのできない酸素を作り出す力を持っています。

そのため、市街地の大部分を占める私有地の緑化を促進していく必要がありますが、市街地の地上部では、土地の有効利用が進行し、新たな緑地を設けることが困難なことから、屋上や壁面も含めた緑化が有効です。

しかし、本市では、屋上や壁面の緑化は事例が少なく、これらを含めた私有地での緑化の留意点や本市の緑化施策を取りまとめたものはありませんでした。

このため、屋上や壁面を含めた私有地の緑化に、多くの市民に取り組んでいただくことを目的として、緑の効果についての説明や屋上等の緑化の計画から維持管理に至る各段階での留意すべき基本的事項や本市の緑化推進策の概要をガイドラインとして取りまとめました。

なお、このガイドラインの作成に当たっては、「屋上・壁面緑化研究会」^{※4}において内容について審議していただきました。

※1 ヒートアイランド現象

空調機器や自動車などから排出される人工排熱の増加や、道路舗装、建築物などの増加による地表面の人工化によって都心部の気温が郊外に比べて高くなる現象をいいます。

※2 地球温暖化

人の活動に伴って発生する温室効果ガスが大気中の温室効果ガスの濃度を増加させることにより、地球全体として、地表及び大気の温度が追加的に上昇する現象をいいます。

※3 温室効果ガス

大気中に微量に含まれる二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O) 等が、温室効果ガスといわれています。

※4 屋上・壁面緑化研究会

(p 2 参照)

屋上・壁面緑化研究会 〔平成20年(2008年)3月現在：敬称略〕

1 構成

(1) 委員

氏名	職名
(座長) 立花 宏二	(有)都市空間システム 代表取締役
川真田 國順	(株)広成建設 技術部担当部長
柴田 康治	(株)河崎組 営業本部長
谷口 和郎	(株)フジ総合企画設計 代表取締役
久松 忠行	(株)増岡組 土木工事部長
正本 大	(社)広島市造園建設業協会 会員
南 紀夫	(株)LAT 建築設計部長
宮本 武利	広島青年緑化協会 会員

(2) アドバイザー

氏名	職名
中越 信和	広島市緑化推進審議会会長 (広島大学教授)
清田 誠良	広島市緑化推進審議会委員 (広島工業大学教授)

2 屋上・壁面緑化研究会の開催経緯

年月日	内容
平成19年(2007年) 8月31日	研究会設置
平成19年(2007年) 9月28日	第1回研究会開催
平成19年(2007年) 12月17日	第2回研究会開催
平成20年(2008年) 2月12日	第3回研究会開催